

第1回 阿賀野市総合計画審議会 議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和元年9月25日（水）午後2:00～3:40

場 所：阿賀野市役所 403 会議室

出席者：折笠委員、加藤委員、佐久間委員、佐々木委員、
武田委員、塚田委員、堀委員、水野委員、八木委員

2 議事概要

- (1) 総合計画の進捗状況について（施策・基本事業評価の結果報告）
- (2) 地方創生関係の交付金事業の評価・検証について
- (3) 地域再生計画事業の評価・検証について

3 主な意見

- (1) 総合計画の進捗状況について（施策・基本事業評価の結果報告）

【地産地消の推進と消費者との交流促進】

○年間農業体験交流者数が約 2,000 人増加したということであるが、具体的にどのようなことを行っているのか。

●地域の農業者から田んぼや畑での活動の指導をしてもらっているが、市内小学校 8 校の体験者数も算入している。以前から小学校の体験者数を含めていたが、さらに精査した結果、約 2,000 人の増加となった。（農林課長）

【土地・家屋の適正利用と有効活用】

○精査により空き家ではないことが判明したとはどのようなことか。

●毎年空き家件数の調査をしており、前年空き家であったものが、除却されたり、新たに住み始めたりするケースがあり件数から減らした。（産業建設部長）

○空き家調査について、以前、アパートが空き家としてカウントされているケースもあったという話を聞いている。アパートや借家は入れ替わりがあり空室が出る。それもカウントしていた経緯があったようだ。そのあたりを純粋に空き家かどうか精査したのではないかと思う。

●基本的には毎年自分たちで現地に行って確認したり、自治会の皆さんから情報提供いただいたりして、空き家件数について取りまとめている。今回、管理不全な空き家が減った一番大きな理由が、撤去して危険な空き家ではなくなったというケースや改築して新たに住

むことによって、あくまでも危険な空き家の件数が減ったということである。

さらに、空き家等対策計画を策定する予定であるが、計画を策定するに当たって、平成 30 年度は、市の担当者による調査と自治会からの情報提供に加えて、業者による詳細な調査を実施した。調査の精度が上がったことによっても、危険空き家の件数が減少となった。(産業建設部長)

【企業誘致の推進】

○阿賀野市として企業誘致はどのように進めているのか。

●企業誘致については、新潟県東京事務所へ職員を派遣して誘致活動を行っていたが、その成果がなかったことなどから、情報発信や新潟県との情報共有・情報交換を行っている。(商工観光課長)

【創業・事業展開の支援】

○平成 30 年度の創業件数は 24 件あったということであるが、業種の内訳はどのようになっているか。

●業種の内訳資料について準備していなかったため、後日示させていただきたい。

24 件の創業となった原因としては、県の補助金等を活用するなど、経費の一部の負担を軽減したことが考えられる。(企画財政課長)

【農業生産基盤の整備】

○県内で阿賀野市の整備率が際立って低い。担い手に耕地を集中させるためにも、スピード感を持って基盤整備を進捗させてもらいたい。モデル 5 地区の整備が完了すると、整備率 11%という目標値は達成できるのか。

●中ノ通、堀耕東、滝沢、発久、勝屋のモデル 5 地区の整備完了がすると、整備率が 13%程度となる。(農林課長)

【産地化・ブランド化の推進】

○他でも大量に作っているものを市場に出した場合に価格が上がらないという話を聞くが、産地化・ブランド化をどう考えているか。

●新たな産地が市場に入っていくというのは難しいこと。その中で、栽培している品目をみると、すばらしいものを栽培しているケースも多い。

直売所ができたころは、市場に出せないようなものを直売所で販売していたが、今はむしろ直売所の方が主流になってきている。ほ場整備が進んでいない農地で、面積で稼ぐというのは難しいと思われる。少量多品目でも他に負けない品目に取り組むことも必要と思う。

(農林課長)

(2) 地方創生関係の交付金事業の評価・検証について

【ハクチョウの湖「瓢湖」周辺魅力向上計画事業】

○観光客を集めたいといった場合、どのような観光客を集めようとしているのか。日帰り客なのか、それとも宿泊客なのかによっても取り組みが違ってくると思うし、民間との連携・協力も必要になってくると思う。観光客の立場からすると観る場所、泊まる場所、食べる場所の3つがセットになって旅行先を選択すると思う。

スイーツやレストラン、温泉などとのセットで瓢湖周辺の魅力向上、市全体の観光を考えたほうがよいのではと思うが、どこを狙って事業を進めているのか聞かせてほしい。

●瓢湖は阿賀野市の大事な観光資源であり、冬場に温泉街が朝のハクチョウの飛び立つ姿を見ていただこうと、セットメニューをプランとして売り出している。ほかの時期については、ほとんどが花を観に来るということで宿泊までには至っていない。五頭温泉郷や瓢湖に隣接するリズムハウスにセットメニューを考えてもらえないか提案していきたい。

また、旅行会社のエージェントとの商談会に出向いて、阿賀野市の観光地、食をPRしており、プランに組み入れてほしいと商談している。(商工観光課長)

○去年1年間瓢湖に行く機会がなかった。瓢湖にはどのような施設があるのか、どのように利用されているのか、もっとPRをしてほしい。

安田地区の風とびあはものすごく便利な施設である。市営バスの便が良く、図書館は京ヶ瀬図書館に比べれば規模は小さいが、いろいろ揃っており素晴らしい施設だと思っている。安田地区の人だけではなく、大勢の市民の方に利用してもらいたい。

【ICTを活用した「稼げる」まちづくり・ひとづくり事業】

○ICTを導入した大型農業用ハウスの事業の達成状況が順調ではないとなっている。中学生や高校生にICT教育を実施したということであるが、プログラミング教育を実施したということか。また、トマトの栽培にこだわらず、例えばイチゴなどでもできるのか教えてほしい。

●ICT教育については、室温、湿度、二酸化炭素濃度などを自動で記録し、離れた場所でもスマートフォンを使って確認できる施設であるということを中学生や高校生に学んでもらった。

トマト以外の栽培もできる。当初はイチゴ栽培という考えもあったが、市内にイチゴ農家が結構あり、そちらに影響がなく、JA ささかみ、JA 北蒲みなみ管内でトマト農家は少なく、まだ伸びる要素があると考えトマトを選択した。

先ほど、産地化・ブランド化について、面積の問題で難しいと申し上げたが、JA ささかみが、大豆の機械化のノウハウを活かしながら、「えんだま」として枝豆に熱心に取り組んでいる。(農林課長)

○JA ささかみでは、昨年からは枝豆に力を入れ、「えんだま」という名でブランド化して取り

組んでいる。県内のほとんどの農協ですでに枝豆を始めている。市や JA 北蒲原みなみと連携しながら取り組むことができれば、もっと大きな産地化となると思う。

○この施設は、生産する施設なのか、ICT を使った農業を普及させるための施設なのかはつきりしていないように感じる。生産現場への視察研修は広がってきているのか。

●ハウスの目的は、トマト生産だけではなく、先進的な施設のため、研修を行う場でもあり、産地化の試験研究の場でもあると考えている。また、温泉郷に近いこともあり、人と人の交流の場という目的もある。小・中学生、高校生に、水稻のみではなく、少し変わったこうした農業もあるということを知ってもらおう学びの場でもあると考えている。(農林課長)

○せっかく費用をかけたのだから、ICT を活用して良いものを栽培するべきではないか。成功すれば周囲の人も賛同する。現状では順調でない中、このままトマト栽培を続けるのか。

●トマト栽培は 2 年目となり、いわゆるフルーツトマトと呼ばれる甘さを追求したトマトの栽培に取り組んでおり、それなりの成果が出てきている。トマト栽培に取り組もうとしている人にアドバイスはできるのではないかと考えている。(農林課長)

【その他】

○阿賀野市では子どもの虐待が何件くらいあるのか教えてほしい。

●市で相談対応した件数では、すべてが児童相談所に保護されるようなケースではないが、平成 30 年度は 66 件あり増加傾向にある。(健康推進課長)

○周囲に高齢者の 1 人暮らしが増えてきているように感じている。市全体では前年と比較して 1 人暮らしが増えているのか。

●今現在、高齢化率が 32.5% で、毎年だいたい 1% 弱くらいずつ増えている状況となっている。(民生部長)

○ICT 大型ハウスについて、あの施設をどのように使っていくのか。良い設備があるので、教育・普及といった、みなさんに学んでもらう施設であれば、収益が赤字でもとは思いますが、今のままでは目標に届かない状況が続き、本当の目的がぼやけてしまうような気がする。このように利用していくとか、このような作物を栽培していくという目的を早めに絞るべき。

●農家の所得が上がるような栽培の形態を取りながら、1 人でも多くの方をトマト栽培に誘導できればと考えている。施設園芸を導入して農業所得を向上させられるようなモデルケースになればと思って取り組んでいるので、みなさまからアドバイスいただきながら進めていければと思う。(農林課長)

○いろいろ課題はあると思うが、長い目で見ていくとこのような農業の取組みも間違いではないのではないかと個人的に思っている。採算性を求めてもあまり意味がないのではと

思われ、こういう問題・課題があるから、今後どのように改善していったらよいかという方向性を地域の農業生産者の方々とともに考えて進めていってもらえたらよいのではないかと思います。

○PDCA サイクルを導入して事業を進めていることは良いことであると思うが、対基準値ではなく、目標がどこにあって、現状どうなのかを職員には認識してもらいたい。

○子育て環境について、親が心のバランスを崩すと子供に影響する。心のケアのためにも阿賀野市民病院に心療内科や発達障害外来、医師の確保をお願いしたい。

あわせて、発達障がいの子どもが増えていることに伴い、介助員の確保もお願いしたい。